

■インタビュー 人事教育部 人事課 松本 幸生 様

Q1. JA わかやまの事業内容や企業理念について教えて下さい。

私たち JA わかやまは、もともと令和 7 年 3 月までは和歌山に 8 個の JA やったんですが、令和 7 年の 4 月に JA が合併して新しくできた組織になっています。

JA わかやまでは営農指導事業という農家さんに農作業のアドバイスをする 仕事であったりとか、販売事業といって農作物を売る仕事、また購買事業と言って農家さんに肥料や農薬をお届けしたり、地域の方に日用品とかをお届けするという仕事をやっています。

また農業関係以外にも、信用事業という 銀行関係の仕事であったりとか、共済事業という保険関係の仕事などもやっていて、JA の中ではそれを総合事業と言っているんですけど、総合事業を通じて農家さんが行う農業であったりとか、農家さんや地域の方々の日々の暮らしをサポートしている、それが JA の事業内容とか、JA が事業を営む目的になっております。

Q2. 松本様が JA に就職を決めたきっかけについて教えて下さい。

私が JA に決めた理由は主に 3 つあります。

1 つ目は和歌山が好きだったからというところです。 私自身は高校まで和歌山で、和歌山市内で育って、大学は京都に出たんですけども、行ってみると外へ出てみるとやっぱり和歌山いいなと思ったというのが一つの理由です。

2 つ目が、なんとなくですけど、地域貢献したいなと思っていて、思った時にちょっとでも自分が好きな和歌山に貢献できたらなと思ったのが 2 つ目です。

最後が 3 つ目ですけども、大学で京都の大学行った時に、和歌山出身だというと梅干し好きだよとかみかん美味しいという言葉をよく聞いたので、農作物というところに関心を他の県の人たち持っているんやなって気づいた時に、そういうのを作物を扱っている組織、JA に就職して、農業の発展とか地域貢献みたいなのができたらなと思ったのが就職した理由です。

和歌山が好きだなって思っていたのって、和歌山のどんなところが好きだなと思いましたか。

そうですね、やっぱりまずは自然というか空気が美味しいなとですね、大阪は大阪で都会の良さがあると思いますけど、やっぱり和歌山で個人的にはそういう田舎の空気が合ってるんやなというのは、両方経験して気づいたところではあります。

僕も和歌山の自然な感じはとても好きです。 是非和歌山で就職してください。

Q3. 異なる JA 組織が合併したことでの業務や組織運営などにどのような変化がありましたか。

基本的には今までやっていた仕事というのは同じようなことをそれぞれでやっていたというところで、あんまり変わってないです。利用者の方々に影響のあるような大きな変化というのはあまりないです。

特にですね、もともと和歌山って果樹王国と言われていて、地域によって採れる農作物が違うと、和歌山市内だったら大根とかも有名ですし、有田だったら有田みかんですし、田辺とか南の方に行けば、南高梅、梅が有名だという中で、1 個にはなったんですけど、農業というのはそれぞれの地域である程度サポート、農家さんをサポートしていくよというところで、もともと 8 個あったところを地域本部という形で残して、JA わかやまであれば和歌山地域本部という形を残して、地域本部で 農家さんのサポートとかを今まで以上にしっかりとやっていこうよとなつたので、全体を通じてあまり大きく変わったところはないかなという印象です。

事業内容は変わらないんですけど、そしたら合併する理由っていうのは別にあったということですか。

そうですね、合併の理由としては、和歌山県で 1 個になることで、和歌山県がこんなにいろんなものが採れるよという PR ができると、1 個それぞれじゃなくて、みんなで力を合わせて和歌山を盛り上げていこうよというところで一致団結したというところが大きな合併の理由になっているかなと思います。

Q4. 「JA わかやまで働く魅力」について教えてください。

JA わかやまは 農業協同組合ということで、株式会社ではなく協同組合という組織になっています。

協同組合の一番の特徴は、利潤の追求・利益を一番に求めるのではなくて、JA であれば JA を利用してくれる方の満足度を一番に考えるという組織になっています。より利用者との距離が近いというのが大きな特徴かなと思います。

なので、農家さんとか地域の方も JA 職員ということで 信頼していただいているというところがありますし、日々の業務をしている中でもいろいろ声をかけていただいたりとか、親しみをもって接してくれる、利用者との距離が近いというのは、一番の他の企業さんにはない魅力かなと思っています。

Q5. 農業や JA わかやまの魅力を伝えるために、JA わかやまでは、どのような工夫や発信をされていますか。

例えば、ホームページの元々8個あったのが一つに リニューアルしたりですね、SNS も インスタグラムを中心にいろんな情報発信を行っています。

和歌山県の農家さんのこととか、JA のことを伝えるための広報誌というのも新しく作っています。

その他、最近では CM とか、テレビ和歌山の CM はちよこちよこ出してたんですが、キー局のいろんな CM とかにも積極的に出したりとかですね、また、日本農業新聞という JA グループの機関誌がありますので、情報発信を 全国に向けてやるといった取り組みをやっております。

特に個人的に面白いなと思ったのはですね、和歌山県の農作物を使った タコスを開発した上で、そのキッチンカーを運営・運行しています。そのタコスを食べていただくということを通じて、和歌山の農作物の良さというのを知ってもらおうといった取り組みをやっているというのが、合併して新しい取り組みなのかな、魅力を伝える取り組みなのかなというふうに思っています。

Q6. 地域農業を支えるために、特に力を入れている取り組みはありますか。

やっぱり農業を支えるためには、農家さんが丹精込めて作った農作物をみんなに知ってもらう、買ってもらう、そして農家さんの所得を上げるということを大切に一番に考えています。

そのためには、今、JA わかやまの農産物販売高で大体 580 億円ぐらいなんですけども、それを 600 億円を目指して様々な取り組みをやろうというふうにやっております。JA わかやまで合併したことで、いろんなところに より力を入れて PR をして、和歌山の農作物を知ってもらおうと、まず知つてもらって買ってもらうとこに力を入れていこうといった取り組みをやっているところです。

Q7. これから先、農家さんの減少などが課題とされていますがその解決策や農家を営む良さというものをどのように伝えていきたいとお考えでしょうか。

日本の農業は家族経営が中心になって、小さな規模での経営が中心になっています。

ですので、JA わかやまとしては 農家さんの跡取りをどういうふうに継いでいただくかということを考えております。

その中で、継いでいただくにはやっぱり 農業の収入が安定することが 一番ということで、収入が安定するような農作物のアドバイスをしたりとか、そういうお金の面でのサポートをしたりとかですね、JA は総合事業をやっていますので、様々なところで 農業を継いでもらうような取り組みを 力を入れてやっています。

また、外部の人も やっぱり新規就農者は来てもらいたいということで、和歌山県行政と連携して農業をしたい方と、農業をしてほしいという農家さんとをマッチングする、マッチングサイトみたいなものを作っていてですね、より新規就農者が増えやすいような、増やしやすいような取り組みも積極的にやっているところです。

Q8. どんな人材を JA わかやまは求めていますか？特に新卒採用で重視するポイントはありますか。

主に3つ、1つ目がコミュニケーション能力になります。JAの仕事はメインは農家さんとか地域の方との対話というかコミュニケーションになります。なのでまずは農家さんとか地域の方とお話しするというところから、特に新人は始まるんですけど、その上でコミュニケーションというのは大切になってきます。

コミュニケーションと言っても JA わかやまでは話す力もそうなんですけども、農家さんとか地域の方がどういうふうに困ってるかなとか聞いた上で、それに応じたサービスを提供するというところで、聞く力というのも大事にしているので、そういうコミュニケーション能力、話す力もそうですし、聞く力も求めています。これも今、今苦手だけども、これから地域のために頑張りたいとか、そういう意欲の高い方も求めていますので、ぜひ PR していただけたらなというところと、

2つ目 3つ目一気に言わせていただきますけども、ポジティブ、前向きにというのと、主体的、積極的にというところは JA も大切にしています。色々な仕事をしていく上では、聞かれたことだけをやるのではなくて、やって言われたことだけをやるのではなくて、さらに一步先の、特に JA は農家さんとか地域の方が困っていることをサポートするというところで、どういうふうにしたら安心して暮らしていただけるかとか、農業をしていっていただけるかなというところを大事に考えているので、そういう一步先を考えていただけるという方を求めていると言ったところです。

結構雑談も多いんですけど、その中で雑談の中で困り悩んでいることを聞き、汲み取って、それに応じたサービスを提供するってことで 利用者の方本人はあんまり悩みを相談するつもりじゃなくても、ちょっと 愚痴を聞いてあげたりとか、話を聞いてそれに応じたサービスを次会った時にお話しすることで、ちゃんと話を聞いてくれてたんやなとか、嬉しいと思っていただけるというところが 大事になってくるかなと思っています。

Q9. 新入職員の研修制度や若手職員のキャリアアップのための制度やサポートについて教えてください。

まず新人職員は新人職員研修というのを受けていただきます。JAについてとかまず協同組合についてから始まって、JA の総合事業、様々な仕事の概要について勉強をしていただいたりとか、ビジネスマナーの研修もさせていただきます。その中で社会人としての基礎をつかんでいただく、勉強していただくという機会をまずは最初に作っています。

その後、業務別の研修を受けていただいております。配属に応じて、仕事に応じて、例えば信用事業に配属されたら金融の知識を学ぶような研修があつたりとかですね 農業購買事業に配属されたら、肥料とか農薬をどういうふうにお伝えするかみたいな研修もありますので、通じて、まずは基礎知識を学んでいただくといった研修のプログラムを組んでおります。

キャリアプランについてはですね、その個人の適性とか能力とか、希望に応じて配属を決めさせていただくというところですので、特に決まったものはありませんので、自分がやりたいこととかをアピールしていただけたらなと思っています。

Q10. JA ならではの福利厚生や制度はありますか。

福利厚生の中で本日お伝えするのは、特別休暇についてお伝えしたいなというふうに思っています。特別休暇というのが JA ならではの有給休暇のことですけども、まず 1 つ目にはリフレッシュ休暇というのがあります 年一回、3 連休ですね、好きな時に取っていただけるという休暇になります。例えば水、木、金、土日祝が休みの場合ですね、最大 6 連休、土日だけで 5 連休とっていただける、とつていただける。これも合併してこの 4 月から新しく導入された制度になっております。

2 つ目がボランティア休暇というのがありますて、和歌山県田舎で、地元の祭りとかの そういう委員とかの役をやっているという方が多いです。PTA の役をやつたりですね、そういう役が仕事抜けないといけない 昼からちょっと準備があつたりとか、運動会の準備とか、祭りの準備とか あればですね、ボランティア休暇を取っていただくということで休めるし、年次有給休暇も減らないし、ただ、働きやすい、休みやすい環境づくりも行っております。

3 つ目、最後は年次有給休暇の話ですけども、通常、年次有給休暇というのは就職して半年経たないと付与されない これは法律で決まっている話なんんですけども、JA わかやまは 4 月 1 日就職したその日に10日付与されます。ですので、例えば 5 月に病気に 風邪をひいてしまったとなった時に、それ有給休暇を 4 月 1 日から使っていただけるので、安心して休んでいただける仕組み、取り組みにしております。

今ですと、子育て支援的な部分についてお聞きしたいんですけど、この辺の制度はありますか。

子育て支援でいきますと、まず育児休業や産前産後休業、その辺の制度についてはしっかりと準備させていただいております。また、小学校入るまではですね、時短、短時間勤務か時差出勤かを選んでいただけるといった仕組みにしていますので、ご家庭の事情に応じて 6 時間の勤務にするのか、また時間をずらしての勤務にするのかというの、ご家庭に応じて決めていただけるところです。

Q11. 入組後に配属先や仕事内容はどのように決まりますか。

まず JA の就職の仕方というのは、総合職という形で採用させていただきます。

営業やりたい方も事務をやりたい方も、みんなまとめて総合職という形で募集させていただきまして、面接とかですね、内定者懇親会とかの中で希望を聞きながら、希望であったりとか、今までの勉強された経験とかですね、適性 検査の結果を踏まえて決めさせていただくとそこで 100 パーちょっと希望が通るとは限らないんですけども、希望にできる限り希望に応じて就けるようにやりたいなとは考えております。

この希望、例えば自分の行きたい部署ではないところに配属に決まって、その次に希望を出せるタイミングとかはいつになるんですか。

年一回ですね、上司との面談の機会がありまして、今の職場どうかとかですね、今の仕事がどうかということを聞かれる機会がありますので、今の仕事を突き詰めたいとか、もっと別のことチャレンジしてみたいところは言っていただける機会を作っています。

Q12. 女性職員の活躍事例について教えて下さい。

女性職員についてはですね、管理職は 年々増えてはきております。

また、共済保険関係の営業であったりとか、また営農指導員ですね、の担当というのも、徐々に今まで男性が多くなったんですけども、女性が増えてきています。

この私自身も、就活生でもそういう希望の声も かなり多く上がってきてるかなと言った印象です。

また、先ほど育児休業の話をさせていただきましたけども、女性の育児休業復帰率というのは 100%で しっかり休んでいただいて、戻ってきやすいという環境も しっかり準備して整っているというところですので、安心して働いていただける職場づくりというのはしっかり 努めていると言ったところです。

Q13. 企業説明会ではどのような質問が多いでしょうか。

和歌山とか地元で働きたいという方が多く来ていただくので、異動のタイミングであったりとかですね、転勤ありますか？ ということはよく聞かれます。答えとしてはですね、基本的には 事業エリアは和歌山県全域になりますので、和歌山市出身の方も、もしかしたら新宮になる可能性はゼロではないんですけども、基本的には実家から通っていただくところを中心に、通っていただけるところで考えていますので、いきなり就職してすぐ 一人暮らしとか引っ越しということはないですし、その後もできる限りないようにさせていただこうというふうには思っています。

また印象的だった質問はどのようなものがありましたか。

異動とか転勤の話の中でですね、海外行けますか とか、海外に支店ありますかとか、他の都道府県の仕事、事務所がありますか？ みたいなことは たまに聞かれます。海外には ちょっと事務所はないんですけども、最近はですね、東南アジアを中心に輸出事業に力を入れてまして、モモとかみかんとか 梅とかですね、積極的に輸出もやっているところですので、海外との関わるような 仕事というのもやっていただけるかなと思っています。

Q14. 学生や若い世代に期待されること、社会人になる前に経験しておくとよい事、ご自身からのメッセージをお願いいたします。

これも質問とかでよく聞かれるのは、資格とつといた方がいいですか？とかって聞かれるんですけど、いつも言わせていただいているのが、資格は運転免許は和歌山で生活する上で必要なというところで取つといてねという話をさせていただくんんですけど、それ以外に必須の資格はないです。

JAに就職して配属された後、その業務に応じて必要な資格は取っていただくので、特にこの資格を取つておかないとというのではありません。

私がいつもお伝えさせていただくのは、経験を色々積んでくださいっていう話をしてます 旅行でもいいですし、バイトをいっぱいするでもいいですし、部活、サークル、勉強を学んでもいいんですけども、それを通じて何でもいいので話のネタを1個でも2個でも多く持ってきてくださいって話はさせていただいています。

JAの仕事の中心、根幹はやっぱり農家さんとか地域の方とのコミュニケーションになるので、雑談とかの中で一つでも二つでも 共通のネタであったりとか、会話が広がるようなネタがあったらなというのを働いている中でも思うので、そういうところをちょっと深められるような、いろんな経験をしてきていただきたいっていう話をさせていただいてます。